

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4648570号
(P4648570)

(45) 発行日 平成23年3月9日 (2011.3.9)

(24) 登録日 平成22年12月17日 (2010.12.17)

(51) Int. Cl.

F 1

D O 3 D 25/00 (2006.01)
C 1 4 B 15/00 (2006.01)
D O 3 D 15/08 (2006.01)
D O 4 D 7/02 (2006.01)

D O 3 D 25/00
 C 1 4 B 15/00
 D O 3 D 15/08
 D O 4 D 7/02

請求項の数 2 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2001-151035 (P2001-151035)
 (22) 出願日 平成13年5月21日 (2001.5.21)
 (65) 公開番号 特開2002-339192 (P2002-339192A)
 (43) 公開日 平成14年11月27日 (2002.11.27)
 審査請求日 平成20年5月21日 (2008.5.21)
 審判番号 不服2010-1050 (P2010-1050/J1)
 審判請求日 平成22年1月18日 (2010.1.18)

(73) 特許権者 500200889
 剛氏有限公司
 香港九龍尖沙咀廣東道30號 新港中心第
 一期七一一室
 (74) 代理人 100079131
 弁理士 石井 暁夫
 (74) 代理人 100099966
 弁理士 西 博幸
 (72) 発明者 中井 剛
 香港九龍尖沙咀廣東道30號 新港中心第
 一期七一一室 剛氏有限公司 内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 毛皮生地及びこれを使用した製品

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

伸縮性系の群と非伸縮性系の群とが交叉したネット状ベースと、紐状毛皮又は毛付き紐状人造物とから成り、前記ネット状ベースには前記紐状毛皮又は毛付き紐状人造物を通して得る網目の群が空いており、前記網目に前記紐状毛皮又は毛付き紐状人造物を通すことにより、前記非伸縮性系に前記紐状毛皮又は毛付き紐状人造物を巻き付けている、毛皮生地。

【請求項 2】

請求項 1 に記載した毛皮生地を使用している製品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本願発明は、ネット状ベースに紐状毛皮又は毛付き紐状人造物を取付けて成る毛皮生地及びこれを使用した製品に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

毛皮製品において、ファッション性の向上や軽量化、原皮の有効利用などの観点から、原皮を細い紐状に裁断し、この紐状毛皮を素材として生地を製造することが提案されている。

【0003】

その例として、実開昭61-155384号公報、特開昭64-45836号公報、特開平1-213432号公報には、紐状毛皮を縦系（経系）と横系（緯系）として織ることによって生地となすか、又は、紐状毛皮と他の糸とを織って生地となすことが開示されている。また、実用新案登録第3027596号公報には、紐状毛皮と毛糸とをニット編みして生地と成すことが開示されている。

【0004】

また、特開平5-171551号公報、特開平6-81000号公報、実用新案登録第3008585号公報には、ネット状のベースに紐状毛皮を絡ませて生地と成すことが記載されている。

【0005】

更に、実開昭57-74953号公報には、多数の帯状毛皮と多数の帯状伸縮性布とを交互に並べて、隣合った帯状毛皮と帯状伸縮性布とを縫い合わせて生地と成すこと、及び、小さな四角形に裁断された角形毛皮と角形伸縮性布とを縦横に交互に整列して並べ、隣合った角形毛皮と角形伸縮性布とを互いに縫い合わせて生地と成すことが記載されている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

実開昭57-74953号公報を除いた各従来技術は、生地が殆ど伸縮しないため身体へのフィット性に欠けるという問題があった。他方、実開昭57-74953号公報の場合は生地を伸縮させることはできるが、生地に作用した引っ張り力が縫い目の部分にそのまま作用するため、破れ易くて実用性に乏しいという問題があった。

【0007】

そこで、本願出願人は、特願2000-130077号において、一連に広がる伸縮性のベースに紐状毛皮又はその類似物を取付けて成る伸縮性の毛皮生地又は毛皮状生地を提案した。本願発明は、この先願と同様であり、強度に優れた伸縮性毛皮生地と製品を提供せんとするものである。

【0033】

【課題を解決するための手段】

請求項1の発明は生地に係るもので、この生地は、伸縮性系の群と非伸縮性系の群とが交叉したネット状ベースと、紐状毛皮又は毛付き紐状人造物とから成り、前記ネット状ベースには前記紐状毛皮又は毛付き紐状人造物を通し得る網目の群が空いており、前記網目に前記紐状毛皮又は毛付き紐状人造物を通すことにより、前記非伸縮性系に前記紐状毛皮又は毛付き紐状人造物を巻き付けている。

【0034】

本願発明は、請求項2に記載したように、請求項1に記載した毛皮生地を使用している製品も含んでいる。

【0038】

【発明の作用・効果】

【0041】

本願発明では、生地作用した外力（主として引っ張り力）が紐状毛皮又は毛付き紐状人造物に直接に作用することは殆どないか又は少ないため、生地の強度は著しく高い。

【0042】

従って本願発明では、ネット状ベースと紐状毛皮又は毛付き紐状人造物とから成る伸縮性の生地を、強度を向上した状態で提供できる。

【0043】

例えばスカートに適用した場合、人の身体へのフィット性には主として横系が寄与しているので、スカートを例にとると、横系のみを伸縮性の弾性系で構成して縦系は伸縮しない非弾性系を使用して、非弾性の縦系に紐状毛皮又は毛付き紐状人造物を巻き付けることにより、製品の保形機能を向上できる。

【0045】

【発明の実施形態】

次に、本発明の参考例及び実施形態を図面に基づいて説明する。

【 0 0 4 6 】

(1). 第 1 参考例 (図 1 ~ 図 3)

図 1 ~ 図 3 で示す第 1 参考例では、縦横に大きく伸縮するネット状ベース 1 を使用している。図 1 は分離斜視図、図 2 はネット状ベース 1 を伸ばした状態の平面図、図 3 は紐状毛皮 2 の巻き付け状態を示す一部破断平面図である。ネット状ベース 1 は、ゴムのよう大きく伸縮する縦系 3 の群と横系 4 の群とから成っており、端部に位置した横系 4 に紐状毛皮 2 を巻き付けている。

【 0 0 4 7 】

端部に位置した横系 4 には太い補強系 4 が重なっている。また、紐状毛皮 2 は、毛 2 a が外側に位置する状態で (スキン面が横系 4 に重なる状態で) 横系 4 に巻き付けている。紐状毛皮 2 は、全ての横系 4 に巻き付けても良いし、一つ飛びや二つ飛びの状態でも巻き付けても良い。図 3 では、紐状毛皮 2 の毛 2 a の部分は一部省略している。

10

【 0 0 4 8 】

衣類のフードのように衣服本体に着脱自在に取付けるもの場合は、紐状毛皮 2 が通っていない網目の群を少なくとも 1 列残しておく、その網目の部分を引き延ばしてボタンに嵌め込むことにより、フードなどを衣服本体に簡単にしかも外れ落ちない状態に取付けることができる。

【 0 0 4 9 】

なお、ネット状ベース 1 を構成する縦系 3 と横系 4 との区別は便宜的なものであり、区別すること自体には大きな意味はない。1 つのネット状ベース 1 において、ある部分では紐状毛皮 2 を横系 4 に巻き付け、ある部分では縦系 3 に紐状毛皮 2 を巻き付けるということも可能である。

20

【 0 0 5 0 】

(2). 第 1 実施形態 (図 4)

図 4 では第 1 実施形態を示しており、(A) は一部省略平面図、(B) は (A) の B - B 視図である。この例は、ネット状ベース 1 の周囲に伸縮性布地からなる縁布 5 を縫い付けている。これは、生地同士の縫い合わせや、衣服本体への縫い付け等の便宜のためである。この例では、縦系 3 は弾性系からなっていて横系 4 は非弾性系からなっており、紐状毛皮 2 は 1 列飛ばしの状態で横系 4 に巻き付けている。

【 0 0 5 0 】

30

(3). 第 2 参考例 (図 5)

図 5 では第 2 参考例を示している。(A) は一部省略平面図、(B) は (A) の B - B 視図である。この例では、ネット状ベース 1 の隣合った網目に紐状毛皮 2 を交互に通している。

【 0 0 5 1 】

従って、紐状毛皮 2 の毛 2 a はネット状ベース 1 の片面だけに露出している。この例の場合、紐状毛皮 2 を張った状態でネット状ベース 1 の目に通している場合は、生地は紐状毛皮 2 の長手方向には殆ど伸びないので、ネット状ベース 1 は縦系 3 だけが伸縮する構造でも良い。

【 0 0 5 2 】

40

他方、両系 3 , 4 を伸縮性のあるもので製造すると共に、紐状毛皮 2 を、ある程度の余裕をもった状態で (すなわち、後述の図 8 と同様に、紐状毛皮 2 の長さをネット状ベース 1 の長さよりも長くして) ネット状ベース 1 の目に通すと、生地は縦横の両方向に伸縮させることができる。

【 0 0 5 3 】

(4). 第 3 参考例 (図 6)

図 6 に示す第 3 参考例も紐状毛皮 2 をネット状ベース 1 の網目に通しただけのものであるが、この例では、紐状毛皮 2 をゴム紐のような弾性芯 6 に巻き付けておき、これをネット状ベース 1 に通している。

【 0 0 5 4 】

50

従って、ネット状ベース 1 の両面に紐状毛皮 2 の毛 2 a が露出している。弾性芯 6 の存在により、紐状毛皮 2 はその長手方向に伸びることができ、かつ、ずれ動きがない利点がある。

【 0 0 5 5 】

(5). 第 4 参考例 (図 7 ~ 図 8)

図 7 ~ 8 に示すのは第 4 参考例であり、図 7 は平面図、図 8 は図 7 の VIII-VIII 視断面図である。この第 4 参考例では、伸縮性ベースとして、弾性糸で織られた布状ベース 7 を使用しており、適当な間隔で平行に並べた多数本の紐状毛皮 2 を布状ベース 7 に縫い付け固定している。布状ベース 7 に裏地の役割を持たせることができる利点がある。

【 0 0 5 6 】

この場合、紐状毛皮 2 は、長手方向に沿って飛び飛びの状態では布状ベース 7 に糸 1 4 で縫着しており、かつ、隣合った縫い付け箇所の間の部位がアーチ状になるように設定している。このため、生地は紐状毛皮 2 の長手方向にも多少は伸縮させることができる。

【 0 0 5 7 】

(6). 第 5 参考例 (図 9)

図 9 に示す第 5 参考例では、上ネット状ベース 1 a と下ネット状ベース 1 b とで紐状毛皮 2 の群をサンドイッチ状に挟み、両ネット状ベース 1 a , 1 b を糸などの適宜手段で離反不能に固定している。この場合、紐状毛皮 2 の側に位置した上ネット状ベース 1 はできるだけ細い糸で構成するのが好ましい。両ネット状ベース 1 とも、紐状毛皮 2 と交叉した方向のみに伸縮すれば足りる。

【 0 0 5 8 】

(7). 第 2 実施形態 (図 1 0 ~ 図 1 3)

図 1 0 ~ 図 1 3 では、製品に適用した第 2 実施形態を示している。図 1 0 (A) の第 1 製品例は、伸縮性毛皮生地で製造されたキャップ状の帽子 8 である。帽子 8 は大きく伸び変形するため、頭のサイズが異なる人が被ってもぴったりとフィットする。

【 0 0 5 9 】

図 1 0 (B) の第 2 製品例は、伸縮性毛皮生地によって製造されたループ状のマフラー 9 である。マフラー 9 はその長手方向に伸びるため、幾重かに巻いて首にピッタリとフィットさせることができる。ループ状又は筒状に形成される他の製品としては、例えばリストバンド、レッグウォーマー、ハンドウォーマー、腹巻などが挙げられる。

【 0 0 6 0 】

図 1 0 (C) では、第 3 製品例として、通常の帽子 1 0 に着脱自在に取付ける飾り 1 1 を表示している。この場合、帽子 1 0 が飾り 1 1 でが締め付けられているため、飾り 1 1 が風で簡単に外れることはない。従って、ホックなどを使用しなくても、ユーザーは、天候や好みなどに応じて、飾り 1 1 を取付けたり外したりする選択をすることができる。

【 0 0 6 1 】

図 1 1 ~ 図 1 2 では第 4 製品例としてマフラー 9 を表示しており、このマフラー 9 は、一端寄り部位の箇所にスリット 1 2 を設けている。そして、図 1 2 に示すように、スリット 1 2 にマフラー 9 の他端部を挿入すると、マフラー 9 は環状になる。図 1 1 で 4 条の平行斜線を表示しているが、これは模様や色彩の違いを表示したものである。

【 0 0 6 1 】

図 1 3 では、第 5 製品例としてスカート 1 3 を表示している。この場合、ネット状ベース 1 は、横糸 4 のみが伸び変形する。また、紐状毛皮 2 は縦糸 3 に巻き付けている。

【 0 0 6 2 】

人の身体へのフィット性には主として横糸 4 が寄与しているので、横糸 4 のみを弾性糸で構成し、縦糸 3 は非弾性糸を使用している (これにより、製品の保形機能を向上できる) 。

【 0 1 0 8 】

なお、紐状毛皮に代えて人造の類似物 (すなわち毛付き紐状人造物) を使用できる。類似物としては、帯状部に毛を植毛又は起毛した構造のものや、芯材の周囲に毛を植毛した

10

20

30

40

50

ものなど、様々の構造のものがある。

【0109】

【図面の簡単な説明】

【図1】第1参考例の分離斜視図である。

【図2】第1参考例に使用するネット状ベースの平面図である。

【図3】第1参考例の一部破断図である。

【図4】第1実施形態を示す図である。

【図5】第2参考例を示す図である。

【図6】第3参考例を示す図である。

【図7】第4参考例の一部省略平面図である。

【図8】図7のVIII-VIII視断面図である。

【図9】第6参考例を示す図である。

【図10】第2実施形態に係る第1～第3製品例を示す図である。

【図11】第2実施形態に係る第4製品例の一部破断平面図である。

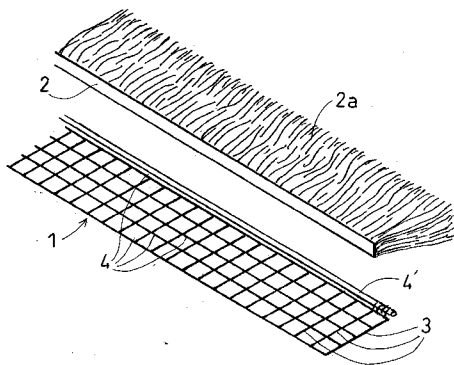
【図12】第2実施形態に係る第4製品例の使用状態を示す図である。

【図13】第2実施形態に係る第5製品例の一部破断斜視図である。

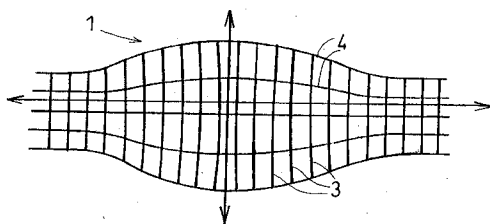
【符号の簡単な説明】

- 1 ネット状ベース
- 2 紐状毛皮
- 3 ネット状ベースを構成する縦糸
- 4 ネット状ベースを構成する横糸
- 8 製品の一例としての帽子
- 9 製品の一例としてのマフラー
- 11 製品の一例として帽子用飾り
- 13 製品の一例としてスカート

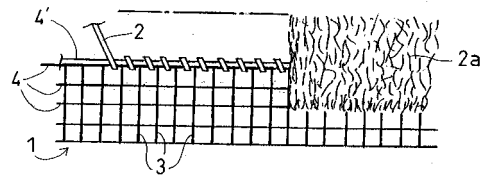
【図1】



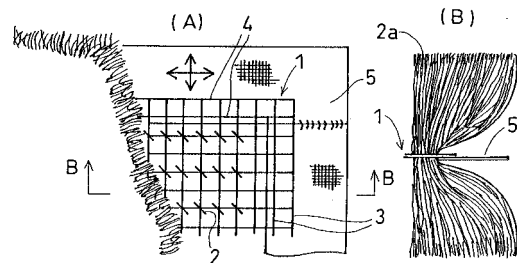
【図2】



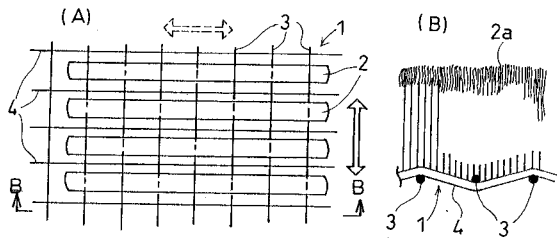
【図3】



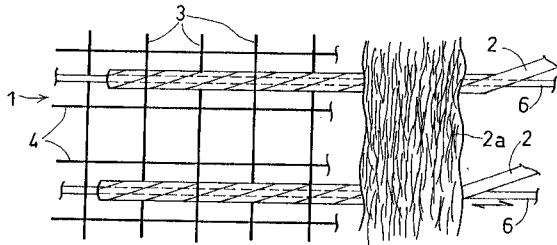
【図4】



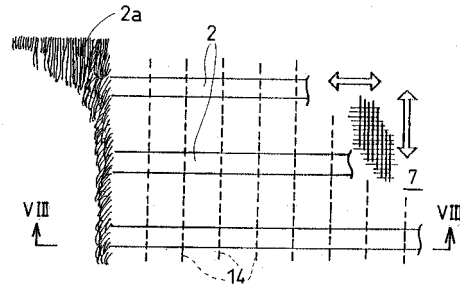
【図 5】



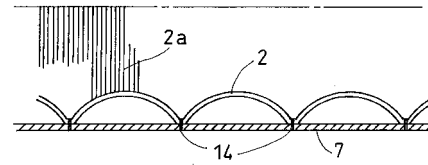
【図 6】



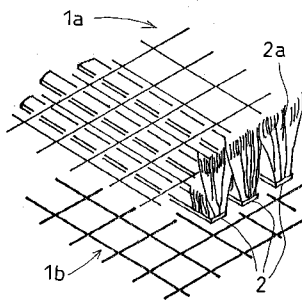
【図 7】



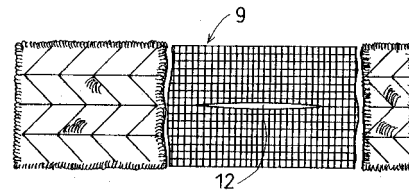
【図 8】



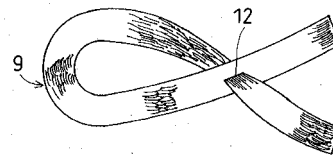
【図 9】



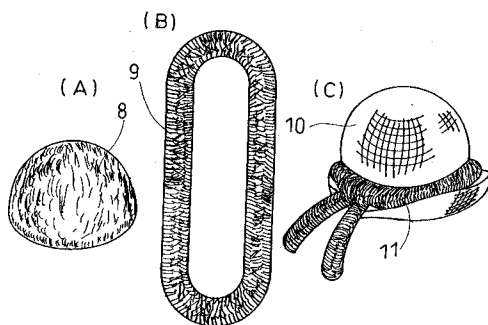
【図 11】



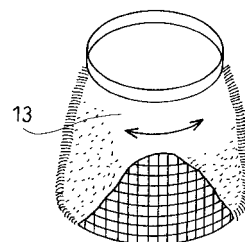
【図 12】



【図 10】



【図 13】



フロントページの続き

合議体

審判長 鳥居 稔

審判官 熊倉 強

審判官 千馬 隆之

- (56)参考文献 特開平 8 - 3 8 3 8 (J P , A)
特開平 9 - 3 1 6 7 4 8 (J P , A)
特開平 5 - 1 7 1 5 5 1 (J P , A)
特開平 1 0 - 2 1 9 5 4 7 (J P , A)

- (58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

D03D 25/00

D03D 15/00-15/12